

VISION 2020

日韓の絆を深めた “平和の天使”

国交正常化 50 周年記念し、 リトルエンジェルスが公演

東京、神戸、広島、福岡

日韓国交正常化 50 周年記念事業の一環としてこのほど、韓国少女民族舞踊団「リトルエンジェルス」が 7 年ぶりに来日、「日韓友好・希望の懸け橋」として、東京、神戸、広島、福岡の 4 力所で公演を行いました。リトルエンジェルスは、9 歳から 15 歳までの少女たちで構成され、現在は約 130 人が在籍。韓国の伝統芸能を通して世界の平和を願い、世界の人々に深い感銘を与えようと日々、舞踊や太鼓、声楽などの厳しい訓練を受けています。今回は公演チームのメンバー 32 人が来日、各地で感動の渦を巻き起こし、“平和の天使”として日韓の絆を深める大役を果たしました。

○東京

東京公演は 11 月 24 日夕、東京・新宿の会場で開催され、国会議員をはじめ多くの VIP が鑑賞、1800 人収容のホールは観客で埋め尽くされました。

公演の冒頭、可愛らしい姿の最少学年の団員がしっかりした発音の日本語で挨拶をすると、客席から歓声が上がりました。

いよいよ幕が上がリ、愛くるしい笑顔の少女たちが登場。美しく華麗な舞と太鼓の演舞は、時に優雅、時に壮大で力強く、また息を呑むような高度なテクニックも随所に見えました。透き通った声とハーモニーで構成されたフィナーレの合唱は、まさに天使の歌声のごとく会場の隅々まで響き渡りました。会場は終始感動に包まれ、少女たちの舞や歌声に多くの人が涙しました。

翌 25 日、千葉・浦安の会場で、北朝鮮唯一の海外総合芸術団体「金剛山歌劇団」との交流会が持たれました。

「平和統一の集い」と題した交流会は、梶栗正義 UPF 事務総長の司会で進行。大塚克己先生の開会の辞、リトルエンジェルス公演の映像上映に続き、林正寿・早稲田大学名誉教授が歓迎の挨拶を行いました。

金剛山歌劇団の蔣基生事務局長の挨拶の後、同歌劇団が、北朝鮮の民族楽器（チャンセム、カヤグムなど）の演奏と歌を披露。

それを受け、リトルエンジェルス（リトルエンジェルズ）の鄭壬順団長が挨拶し、リトルエンジェルスが答礼の歌として数曲披露しました。

お互いの公演が進む中で、会場は「平和統一の集い」にふさわしい雰囲気になり、プレゼント交換やゲームなどを通じてさらに友好ムードが高まり、最後は全体合唱、記念撮影をして交流会は幕を閉じました。

鄭壬順団長は「このような交流の場は大変貴重だと感じます。芸術文化を通して南と北が一つになることを心から願っています」と述べ、参加者は南北平和統一への期待を膨らませました。

(3 面に続く)



①リトルエンジェルスの少女たち
②「扇の舞」
③JR 新大久保駅にある追悼プレートの前で
④金剛山歌劇団との交流会で合唱を披露
⑤東京公演で
⑥「人形の踊り」
⑦韓国民団中央本部前で行った慰霊式



①日本の名曲「夕焼け小焼け」「ふるさと」も披露 ②長鼓の踊り ③金剛山歌劇団との交流会で
④金剛山歌劇団の女性歌手 ⑤高垣広徳・広島県副知事を表敬訪問 ⑥広島・平和記念公園の原爆
死没者慰霊碑で献花 ⑦仮面の踊り ⑧最終の福岡公演で支援者らと

26日は、韓国民団中央本部前（東京・麻布）の慰霊塔とJR新大久保駅（東京・新宿）の構内で慰霊式が行われました。

前者について、「6・25 韓国動乱」（朝鮮戦争）勃発60周年を迎えた2010年から11年にかけて、リトルエンジェルスが参戦兵士を慰労するために世界巡回公演を行った際、朴普熙総裁が在日僑胞の参戦者を念頭に、「リトルエンジェルスの参戦兵士慰労の旅は日本でフィナーレを迎える」と語った経緯があります。

新大久保駅での慰霊式は、2001年に同駅構内で線路に転落した日本人男性を助けようとして亡くなった、韓国人留学生・李秀賢さんと日本人カメラマン・関根史郎さんの勇気を称え、その尊い犠牲に敬意を表してのものです。

団員たちは、新大久保駅の階段の踊り場に設置されている追悼のプレート前で献花。慰霊式がスムーズに進められるように、駅長を中心に駅職員が全面的にサポートしました。

団員たちは日韓両国の犠牲者を追悼する慰霊式を通して、人のために自らの命を投げ捨てた事実を改めて知り、深い祈りを捧げました。

○神戸

11月28日、一行は1週間の東京滞在を終え、神戸まで8時間かけてバスで移動。16地区の陸泰昊地区長をはじめ、たくさんの地元メンバーが歓迎しました。

29日、1700人が詰めかけ満員となった神戸公演も、さらに感動的な公演となりました。

リトルエンジェルスの演目の中には、背景に映像を活用したりして趣向を凝らし、色鮮やかな蛍光色を利用して演出の効果を出すなど、照明を駆使したのも数多くあります。中でも「扇の舞」の最後の照明効果は、ため息が出るほど。獅子の踊りを取り入れた「仮面の踊り」でも、蛍光照明の演出を用いています。

約2時間、13の演目があつという間に披露され、最後の合唱で歌われた日本の名曲「夕焼け小焼け」「ふるさと」は観衆の心を洗い清め、多くの人のひとみに涙が。

○広島

11月30日は広島へ移動。ホテルに到着すると、11地区の佐野清志地区長をはじめ、大勢の韓国人婦人による歓迎がありました。この日は、日韓親善協会や広島県庁、広島市役所、領事館を表敬訪問。記念品の交換や歌の披露をするなど、貴重な時間をもちました。

表敬訪問の中で、鄭壬順団長は「広島での公演は3回目、3数という完成数であることにとっても意味があり、希望を感じます。今回の公演を通してたくさんの方が感動し、日韓友好の絆がさらに深まり、世界の平和に貢献できたら幸いです」と述べました。

12月1日午前、広島市の平和記念公園で行われた2つの慰

霊式。まず、「韓国人原爆犠牲者慰霊塔」の前で、当時広島に住んでいた韓国人犠牲者を追悼し、黙祷と献花を行った後、アリランを歌いました。続いて、原爆死没者慰霊碑の前で、犠牲者の追悼と平和を願う黙祷を捧げて献花し、「ふるさと」を讃美。青空の下、爽やかな風の中に神様の愛を感じながら、もう二度とこのような悲劇を繰り返すことのないようにと、一人ひとりが深い祈りを捧げました。

その後、同日夕方の広島公演では、開演前に駐広島韓国領事館の総領事が挨拶。この日も多くの観衆に感動を与えて、素晴らしい公演を披露しました。天使の笑顔は絶えることなく、多くの人の心に癒しと潤いを与えました。

○福岡

12月2日、今回の最終公演の地、福岡へ移動。福岡のホテルに到着すると、12地区のたくさんのメンバーが出迎えました。

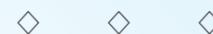
12月3日の福岡公演当日。会場の外は雨と強風の中でしたが、開場30分前にはロビーを埋め尽くすほどの人で溢れました。会場のある宗像市は福岡市中心部から少し離れた静かなところがありますが、1500人の会場は大勢の観衆で賑わいました。

この日が最後の日本公演ということで、団員、教師陣、スタッフ陣一同は緊張感をもって臨み、感動的な舞台を展開、盛大な

拍手喝采で幕を閉じました。フィナーレ最後の日本語による合唱は、どの公演でも観客の多くの涙を誘いました。

この日は、梶栗正義UPF事務総長、朴鍾泌第12地区長のほか、地元議員や領事館関係者などが鑑賞、激励しました。梶栗事務総長からは、日本公演の全ての成功を祝賀し、博多人形とお菓子を団員一人ひとりにプレゼント、和やかなひと時となりました。

12月4日早朝、リトルエンジェルス一行は空港へ向かい、別れを惜しみながら韓国へと旅立ちました。



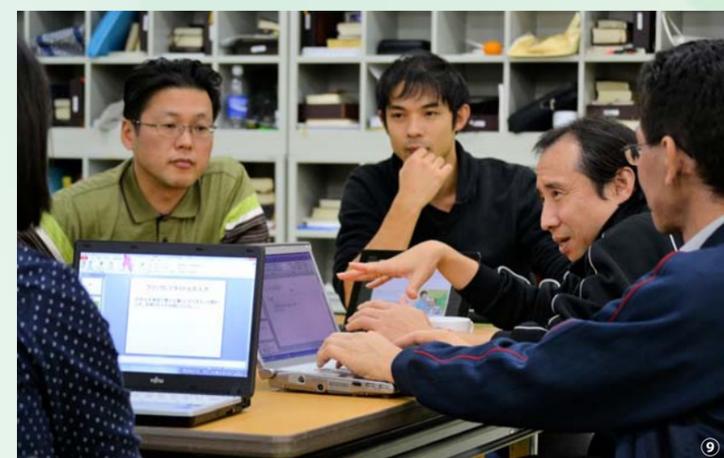
「スポーツと芸術は人類を一つに結ぶ道具です。そのような活動がまさに平和をもたらす手段となるのです」と語られた真のお父様。

韓国からやって来た32人の“平和の天使”たちの満面の笑顔と優しい表情、彼女たちの立ち居振る舞いの中に、観客は真の愛を実感し、本心を揺り動かされたのです。

今回の日本公演ツアーは、芸術を通して神様の心情を表現していくという、真の父母様の理想を改めて感じさせるものでした。

“救国救世の原動力となれ”

第5期日本トップガン修練会



(韓国・修了式)
 ①修了式でみ言を語られる眞のお母様 ②韓国・第2期、日本・第5期のトップガン修練生 ③日本・第5期のトップガン修練生 ④眞のお母様を中心にトップガン修練生 ⑤日本の修練生が披露した「無条件」の歌とダンス ⑥「ヘブンGバーガー」をほおぼる修練生
 (日本)
 ⑦宋龍天総会長 ⑧李海玉総会長夫人 ⑨ディスカッションをする修練生

今回で5回目となる「VISION 2020 日本トップガン修練会」が、10月31日から11月20日までの21日間、千葉中央修練所（千葉市）で開催されました。今回の修練会には、牧会者9人（韓国人6人、日本人3人）、成和青年部長13人、CARPスタッフ8人、その他の教会スタッフを合わせて全国から45人が参加、年齢や役職を超えて活発な交流ができる貴重な機会となりました。11月30日には、眞のお母様の主管の下、韓国・清平の天正宮博物館で初となる日韓のトップガン修練会合同の修了式が行われました。

今回の日本トップガン修練会もこれまでと同様、「眞の父母様の伝統を相続し、新しい時代を切り拓く摂理の主役になろう！」とのスローガンを掲げ、“眞の父母観”の確立と次世代のリーダー育成を主要なテーマとした教育プログラムに加え、修練生による様々なディスカッションが行われました。

修練生は毎朝6時に起床し、掃除、体操を行った後、天一国経典「天聖經」を訓読。午前と午後のプログラムを実施後、午後8時から再び『天聖經』の訓読、祈祷会を行い、その日の感想文を書いて午後11時には就寝というのが基本的な日課でした。修練会の主なプログラムは以下の通り。
 ・原理講義（中村惣一郎 千葉中央修練所所長、4日間）
 ・眞の父母様の生涯路程（可知雅之 特別巡回師、2日間）
 ・先輩家庭の証し（櫻井節子夫人、柴沼邦彦先生、横井捷子夫人）
 ・高田馬場・早稲田聖所巡礼

10月31日の開会式では、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が「天一国実体化のためのVISION 2020 戦略」と題して、約2時間の力強いメッセージを贈りました。宋総会長は、“救国救世”を中心的なテーマに、リーダー像やリーダーシップについて言及。また「7大運営指標」や「5

大希望プロジェクト」などを改めて解説しながら、具体的に明確な戦略案を訴えました。修練生の多くがVISION 2020に対する考えが整理され、大きな希望を感じました。修練会の後半には、班別や各自が関心のあるテーマごとに集まってディスカッションを行い、全体の前で発表、問題意識や解決策などを共有しました。今回は、統一原理への導入を20分間で行うためのプレゼンテーションの考案や「家庭連合時代に求められる変化」のほか、「中高生の連結」、「大学生の活性化」、「青年伝道や祝福推進」、「二世青年の連結」などについて白熱した議論が展開されました。一部の修練生の感想をご紹介します。今まで自分が経験した修練会の中で、一番充実した最高級の修練会だったと思います。何より参加した皆さんがトップガンのメンバーとして、眞のお母様に親孝行したい気持ちが感じられ、

全員が自ら率先して食事当番や奉仕をしていたし、祈祷会での「家庭盟誓」の唱和や『天聖經』を訓読する声が、全体で一人の声のように聞こえて感動しました。皆が自らリーダーシップを発揮しようとする姿にも、家庭連合の未来に希望を感じました。（北海道教区長 朴洗烈）
 眞のお母様と呼んで下さったという感覚を強く覚え、修練会中は常に眞のお母様が近くにおられる感覚がありました。そのような中で、全く新しい次元でみ言の偉大さを知ることが出来ました。トップガン修練生として恵みを受けて良かったという次元ではなく、具体的にVISION 2020 勝利のため、救国救世のため、本気でみ言を果たしていきます。（足立教会成和青年部長 樋口秀樹）

初となる日韓合同の修了式

11月30日午前11時から、天正宮博物館の宴会場で、真のお母様をお迎えし、日韓合同でトップガン修練会修了式が挙行。日本の第5期トップガン修練生45人と韓国の第2期トップガン修練生56人の計101人が集い、それぞれの代表者が修練会の経過報告や証しを行いました。

午餐会では、真のお母様が考案された「ヘブンGバーガー」が振る舞われた後、日韓双方の修練生がそれぞれ歌とダンスを披露。お母様は笑顔でご覧になられました。

お母様は「天一国、定着ですか？ 安着ですか？」と問い掛けながら、「皆さんが今日決意したこと、私に見せてくれた皆さんの意志と決心を必ず成し遂げて、神様と真の父母様と全人類が安住することが出来るその日に向かって前進しましょう！」と修練生たちを鼓舞されました。

午餐会で日本のトップガン修練生が披露したのは、「사명 (使命)」、「무조건 (無条件)」、「사랑찾아 인생을찾아 (愛を探し、人生を探し)」の3曲で、それぞれ歌詞の一部を替えて合唱し

ました。中でも「사명」の歌詞には、宋総会長をはじめ、修練生にとっても印象深いメッセージが込められていました。その一部をご紹介します。

お父様、私を送って下さい。私は走って行きます。
命も惜しくありません。私を送って下さい。
世が私を嫌っても、私は愛します。
世を救った十字架、私も背負います。
命を落とすまで私を愛したあなた。
この未熟な私を受け止めて下さい。
私も愛します。

第5期トップガン修練会が無事修了し、日本全国で歩むトップガン修練生は200人を超えました（トップガン修練会は来年少も開催される予定）。VISION 2020の成就、そして救国救世の原動力として、トップガン修練生のさらなる活躍が期待されます。



⑩ 第5期トップガン修練会開会式
⑪ 講話に耳を傾ける修練生
⑫ 真のお父様とゆかりが深い早稲田大学を訪問

“日本の青年たちよ、世界平和実現の先頭に立て”

「世界平和青年連合」創設20周年記念イベント開催



① 宋龍天 UPF 日本リージョン会長
② 松田幸士 YFWP-Japan 会長
③ 拍手を送る参加者
④ 会場を盛り上げたエネルギッシュなダンス

加者を激励しました。メインスピーカーとして登壇した宋龍天UPF日本リージョン会長は「20年前、世界的平和指導者の文鮮明先生は、新しい世界秩序づくりの牽引役として世界平和青年連合を創設し、世界平和実現のために青年が先頭に立つ必要性を訴えられたのです」と創設の背景を解説。さらに、昨今のIS（「イスラム国」）問題やフランスでのテロ事件に触れ、平和のための世界的な連携が必要だと訴えながら、「日本、世界のために貢献する青年の運動を推進していきましょう」と呼び掛けました。

世界平和と日本再生に貢献する青年運動を推進する「世界平和青年連合（YFWP-Japan）」の創設20周年を記念するイベント「ニューユース・アッセンブリー」が12月5日、神奈川県川崎市の会場で開催されました。「輝く新青年！ 青年が躍動する日本を実現しよう！」というテーマのもと、各界の有識者や青年指導者、首都圏から集った青年・学生など約800人が集い、YFWP創設20周年を祝賀しました。

躍動感あるダンスによるオープニングの後、司会者が「創設20周年ということは、人に例えれば20歳。成人を迎え、きょうは名実ともに社会にコミットしていくYFWPとしての新たな出発の場です」と述べ、開会を宣言。

続いて映像が上映され、YFWP-Japanが取り組んできた新青年運動の20年の足跡を回想。日本のYFWP創設大会開催時に創設者から伝えられた進軍命令とも言うべき「The Youth of Japan, Go and Save the World. (日本の青年たちよ、行け！そして世界を救え！)」というキーワードに触れ、参加者たちが日本青年のミッションを再確認しました。

国会議員と大学教授による祝辞の後、徳野英治 YFWP-Japan 顧問は「若者は世界に出てさまざまな体験をし、日本と世界の問題を肌で感じるべきです」と強調。「世界のため、日本のために生きるグローバルリーダーになりましょう」と参

青年による優秀な奉仕プロジェクトの表彰の後、①過疎化の進む地域の活性化プロジェクト②青年指導者フォーラム③結婚セミナー④日韓青年友情プロジェクト——の4つの模範活動を紹介、有識者がコメントするパネルディスカッションも行われました。

最後に松田幸士 YFWP-Japan 会長は、青年連合の今後の方針として、①若者の政治意識の啓蒙②地域社会活性化のための奉仕プロジェクトの推進③非婚・晩婚化問題に対し、若者が結婚に希望を持てるように意識啓蒙④グローバル人材の育成——などを訴えました。

ダンスや音楽のプログラムも展開され、成人を迎えたYFWP-Japanを祝賀するにふさわしい、躍動感溢れるイベントとなりました。

参加者からは、「パネルディスカッションが良かったです。具体的に日本の課題を解決しようとされている活動で希望的でした」「青年連合の活動をこれまであまり知りませんでした。世界平和、地域貢献のために情熱を注がれる姿に心ふるわれました。日常生活で縮んでいた心に熱気が与えられました」といった感想が寄せられました。

“信頼と尊敬を受ける神氏族メシヤとして勝利しよう！”

宋総会長が大阪、奈良、群馬を訪問



①大阪家庭教会で行われた神氏族メシヤ復興会
②群馬・太田家庭教会の入堂式でメッセージを語る宋総会長
③太田家庭教会の入堂式でテープカット
④奈良家庭教会で婦人食口と記念撮影

●9地区「神氏族メシヤ復興会」

12月2日、大阪家庭教会（大阪市）に宋龍天・全国祝福家庭連合会総会長・李海玉サモニムご夫妻をお迎えし、第9地区の「神氏族メシヤ復興会」が行なわれ、900人以上が集まり熱気にあふれる集会となりました。

式前公演では、フラダンスや「江南スタイル」の歌と踊りで会場は大盛り上がり。李海玉サモニムも「家庭連合時代にふさわしい賑やかさです」とご満悦でした。

朱鎮台第9地区長の挨拶の後、「子熊と母熊」の映像を上映。カ一杯に叫ぶ子熊を母熊が守る姿に、私たちが子女を守ろうとする天の父母様の愛を重ね合わせ、多くの食口が落涙。映像を受け、李サモニムは「私たちも『そうだ、そうだ。アージュ、アージュ』とカ一杯叫んで歩みましょう」と呼び掛けました。

続いて宋総会長が登壇し、真のお母様の近況などを紹介しながら、「天の願いは神氏族メシヤの使命成就と救世救国です」と強調。心情共同体をつくり、夢を持って種を植える信仰の重要性を強調しました。

●奈良教区特別集会

12月3日、奈良家庭教会（奈良市）に宋龍天総会長をお迎えし、「奈良教区特別集会」を開催、約230人の食口が参加しました。

宋総会長は「祝福家庭として真の父母様の願いを正しく理解しながら、社会から信頼と尊敬を受ける神氏族メシヤとして勝利し、日本出発の地・奈良を復興させていきましょう」と激励しました。

全体で記念撮影の後、宋総会長は参加者たちと握手、食口たちは多くの恩恵に感謝しました。

●群馬・太田家庭教会入堂式

関西での集会に先立ち、宋龍天総会長は11月23日、太田家庭教会（群馬県太田市）の「入堂式」を主管しました。

同日午前9時半過ぎ、宋総会長が太田家庭教会に到着。牧会者や婦人代表、歴代教会長などおよそ140人が出迎えました。まず、玄関前で宋総会長を中心にテープカット。続いて、食口たちが屋外で聖歌「園の歌」を讃美する中、宋総会長が教会全体を聖壇で聖別しました。

礼拝堂で行われた入堂式では、「太田家庭教会入堂までの歩み」の映像を上映、参加者は懐かしさと共に今後の期待感を膨らませました。

金載坤教会長による経緯報告、上條啓介第4地区長の挨拶に続き、歴代牧会者を代表して金昇虎信野教会長が祝辞を述べました。

宋総会長は記念説教に先立ち、真のお母様が教えて下さった歌で入堂式を祝賀。「家庭連合に名称変更し、新しく出発したことは大きな祝福です。私たちが日々成長し、天を証していくことが大切です」と述べ、太田家庭教会が全国の先頭に立つて「疎通と共有」を実践してほしいと語りました。

午餐会では、エンターテインメントの後、宋総会長から温かいメッセージが贈られ、食口たちにとって忘れがたい恵みのひと時となりました。

家庭連合時代にふさわしい心情文化共同体を

新潟で「第2回家庭文化祭」開催



①梶栗正義 UPF 日本事務総長
②家庭文化祭の参加者
③持ち寄った家庭料理に舌鼓
④盛り上がった手押し相撲
⑤家族に宛てた手紙を披露

「いい夫婦の日」の11月22日、新潟市の新潟家庭教会で「第2回家庭文化祭」が開催され、新潟教区の5つの家庭教会から63家庭、総勢238人が参加しました。家庭文化祭は、親子のコミュニケーションや家庭間交流を通じて心情文化共同体を形成し、三世代が集う教会づくりを目指して開催。8月の第1回家庭文化祭をリニューアルし、青年による企画・運営のもと、プログラムが進行しました。

オープニングの出し物として、聖歌隊による歌とダンス、高校生のサクソ演奏、小学生の合唱が披露。続いて、家庭ごとのじゃんけんやビンゴ、家族自慢ゲームをしながら、家庭同士の交流を図っていきました。

引き続き、梶栗正義 UPF 日本事務総長が、家庭の重要性をテーマに講話。「いい夫婦の日」にちなんだ話題を織り交ぜながら、夫婦関係を円滑にするためにはお互いが利他主義を実践し、「無私」になることが重要であると語りました。

昼食の時間には、韓国人婦人が韓国料理チヂミを振る舞い、壮年が魚をさばいて刺身を提供。また婦人チームが豚汁や焼きそば、チャーハンを準備し、それぞれの家庭も一品を持ち寄りました。

午後のプログラムは、佐藤さん一家による民謡と中高生のダンスのほか、「お笑いレッドカーペット」と題した青年・高校生の3組によるコント、中高生・青年による「無条件」のダンスが披露されました。

子供の出番の後は、「お父さん部門」「お母さん部門」に分かれての手押し相撲のトーナメント戦を開催。青年が実況・解説を担当し、小学生の子供が母親に向けて応援メッセージを贈る心温まる一幕もありました。

続いて、「教会の中心で愛を叫ぶ」と題して、代表3家庭が

壇上で家族愛をスピーチ、普段は聞けない夫、妻の愛の叫びはとて新鮮でした。20～30年前の家庭修練会のエピソードを披露する家庭が多く、6000双、3万双、36万双の歴史を感じた瞬間でもありました。

最後に、手紙やプレゼントを交換した後、家族で手をつなぎ、全体で「しあわせってなんだろう」を合唱。すべてのプログラムを終えました。

第1回目より参加人数・家庭数が増え、教会員ではない祖父母や親族も参加。家庭連合時代の幕開けにふさわしい、家庭交流を行う良き時間となりました。

【参加者の感想】

- 「あまり教会のイベントに参加することができなくなっていました。今日一日教会で過ごすことができ感謝です。これからも積極的に参加していきたいです。教会の中にいると落ち着きます」（中学生）
- 「今回は家族の知らない一面を見つけ、また他の家族の素晴らしい一面を知ることができ、改めて家族はいいものだと実感しました。出し物も本当におもしろく笑いが止まりませんでした。次回も参加したいです」（青年）
- 「講演もエンターテインメントも素晴らしかったです。夫にもっと尽くして親切にしていかなければと反省しました。子供たちに『父さん、母さんは助け合ったり、誉め合ったりいい夫婦だな、いい家庭だな』と思ってもらえる夫婦・家庭を作っていきたいです」（父母）

お母様の精神を受け継いで前進しよう！

徳野会長を招いて各地で特別集会



① 徳野会長から功労者に天一国経典『天聖經』を授与（和歌山教区）
 ② 講話を行う徳野会長（南長野教区）
 ③ 藤枝家庭教会での特別集会（東静岡教区）
 ④ 表彰状を手渡す徳野会長（15地区）

11月後半も、全国各地で徳野英治会長を招いて特別集会が開催され、復興の輪が広がっています。今回は、和歌山、南長野、東静岡の各教区と15地区（京都、奈良、滋賀、三重）における集会の様子をレポートします。

●和歌山教区

11月18日、和歌山家庭教会に到着した徳野会長を食口約210人が迎えました。

和歌山北家庭教会婦人のコーラス、^{ジュンテ}朱鎮台第9地区長による歓迎の挨拶に続き、徳野会長は講話で、「真のお母様の心情、事情、願いを知らなければなりません。そのためには、祈祷、み言訓読の生活が重要です。特に三大経典の中心である天一国経典『真の父母経』を毎日訓読すれば、真の父母親がずれることはありません」と指摘、天一国創建に向け中断なき前進をしておられる真のお母様をお支えする孝子孝女になるよう激励しました。

●南長野教区

19日には南長野教区の松本家庭教会で「特別集会」が開催されました。

上館一友南長野教区長は挨拶で「真の父母様の心情と願いをより深く理解し、連結して下さるために徳野会長が来て下さいました」と、特別集会の意義を解説。

徳野会長は「52年間、真のお父様に侍られた真のお母様の偉大さに比肩する人は一人もいません。お父様が聖とされる時、全てを託された方がお母様です。そのお母様の願いを実現する皆さんになって下さい」と語り、食口たちが真の父母様の

心情に連結される尊い時間となりました。

●東静岡教区

21日、東静岡教区の藤枝家庭教会で行われた「特別集会」では、聖歌隊が、真のお父様のみ言「静岡は静かな岡だと思ったが富士山があるから、よい岡になるよ。富士は父子である。父子の関係がたてばよい岡になる」に因んで、「富士山」を歌いました。

刑部徹第6地区長の挨拶に続き、徳野会長は「氏族で真の父母様を知らない人がいないように」と氏族伝道の重要性を強調。さらに事前に視察した新教会の建物に言及し、「この3倍近い広さの新しい教会を見て希望を感じました。新しい館は新しい生命を復帰するためのものです。新教会の入堂をきっかけに、必ず霊の子を立てましょう！」と語りました。

●15地区（京都、奈良、滋賀、三重教区）

26日、11月では最後となる15地区の特別集会が京都市内の会場で行われ、食口約550人が参加しました。

熊谷栄佐雄地区長は挨拶で、「どの地区よりも親孝行の心情で負けてはなりません。2015年を真の子女として立派に勝利して締めくくりましょう」と訴えました。

表彰式と記念撮影の後、徳野会長が講話の中で、「私は生きている間に必ずゴールにたどり着く」と決意されている真のお母様の絶対的な信仰姿勢を示しながら、「私たちが前進しなければ国家と世界に希望がありません。今一番大切なことはお母様を支えること。お母様の精神を受け継ぎ、前進に前進を遂げる15地区になりましょう」と呼び掛けました。

“家族のチカラ”で地域の復興を

福島・いわきで「ファミリーフェスティバル」



① 徳野英治会長
 ② 男女混合のコーラス隊による合唱
 ③ 「いわき復興ファミリーフェスティバル」の参加者
 ④ アトラクションで盛り上がる青年たち

紅葉が見ごろとなった11月22日、福島県いわき市内の会場で、「良い夫婦の日・いわき復興ファミリーフェスティバル」（主催：真の家庭国民運動推進全国会議いわき支部）が開催されました。東日本大震災から4年8カ月が経過する中、“家族のチカラ”を結集して喜びの和を広め、地域の復興につなげようと、市議員2人や新規ゲストなど125人を含む432人が集いました。

1部では、まず中和文化祭で活躍した成和部が元気でエネルギーなヨサコイの踊り「宝島」を披露。司会の開会宣言に続いて、三世代・男女混合のコーラス隊が「ビリーブ」と復興の歌「花は咲く」を歌い、祝福二世の音大生がピアノを演奏、参加者の心を癒しました。最後のアトラクションとして、小中高生が親子でアイドルグループAKB48のヒット曲「恋するフォーチュンクッキー」を踊り、会場は大いに盛り上がりました。

2部では、^{キムヤンソク}金陽碩支部長の主催者挨拶、地元議員の来賓挨拶に続き、徳野英治会長が登場。世界50カ国を訪ねた経験を踏まえながら、豊かな日本で年間2万7千人にも及ぶ自殺者数に触れ、「日本は国の未来を担う若者のことを考えれば、教育改革が不可欠です」と述べ、人格教育、道徳教育、情操教育の必要性を分かりやすく解説しました。

さらに、文鮮明先生のみ言を引用しながら、①「愛の器官」の真の主人は配偶者であることを知る、②コミュニケーション

を重視し感謝の思いを表現する、③相手を愛しようとせず自分が変わる——ことなど、「円満で幸せな家庭を築くための秘訣」をユーモアたっぷりに語りました。

その後、抽選会が行われ、20人に素敵な賞品がプレゼント。徳野会長自らが壇上で番号札を引き、当選者は喜びいっぱいの表情で徳野会長と記念写真に収まりました。

最後は、勝沢誠三フェスティバル実行副委員長のリードで億万歳四唱を行い、全体で記念撮影をしてこの日のイベントは幕を閉じました。

11月22日の「良い夫婦の日」に、真の家庭を築く国民運動を氏族、地域社会に広げる恩恵深い場になりました。

【参加者の感想】

■最近見失われつつある家庭の大切さ、家族の貴さを実感しました。良い夫婦の日にこの素晴らしい運動にめぐりあえたことに感謝します。本物の夫婦・本物の家庭になって自慢できるようになりたいです。

■アトラクションが大変感動的で、心が洗われるようでした。忙しい日々で疲れが溜まっている中、青年たちの躍動感あふれるダンス、心が癒されるコーラスやピアノ演奏、最後の親子のダンスなどから、大きな力をいただきました。

「第7回 全国成和学生原理講義大会」開催

中高生が講義実践を通して原理理解を深化



「第7回全国成和学生原理講義大会」が11月29日、東京・渋谷の松濤本部で開催されました。今大会では、「第19回全国中和文化祭」の東・西日本大会のチャート原理講義部門で優勝した中学生による模範講義の発表と、原理講義部門の上位3位入賞者による決勝大会が行われ、大会の様子はインターネットを通じて全国の教会へ中継されました。

今年で7回目を迎えた原理講義大会は、成和学生（中高生）が原理講義に挑戦することを通して、統一原理に対する理解を深め、分かり易く原理の内容を伝える力を養うこと、さらに講義実践を通して原理を学ぶことの重要性和学習意欲を高めることを目的としています。

全国各地から集まった発表者たちは、まず食事を共にしながら自己紹介を通じて交流。リハーサルを行って発表本番に向けた準備をしました。

開会式では、審査員の一人である日座正美^{ひざまさみ}一心特別教育院長より激励の挨拶がありました。次に、模範講義として東西大会優勝者の中学生2人がチャート原理講義を発表。与えられた7分間で、写真や図を挿入して工夫を凝らして作成したパワーポイントを使いながら、元気よく堂々と講義をする姿が印象的でした。

その後、東西大会で上位3位に入賞した6人による原理講義の発表が行われました。発表者は制限時間の10分間で、それぞれの個性を發揮した素晴らしい講義を行いました。どの発表者も、統一原理の内容を正しく理解し主要なテーマや要点を整理して、分かり易い例え話で聞き手の関心を引きながら原理

講義の発表後、審査員を代表して西山君義^{きみよし}・千葉中央修練所



①審査員、発表者らと記念写真
②優勝した1地区北海道教区の高校生
③発表者へ伊藤部長から記念品の授与

講師による講評と発表者一人ひとりに対するアドバイスがありました。また、特別出演として、スピーチ部門における東日本大会優勝者が発表を行った後、東日本大会で語られた文研嬢様のメッセージを全体で視聴しました。

閉会式では、伊藤安昭^{いとうやすあき}青年学生局成和学生部長による総評と表彰が行われました。優勝者にはトロフィーと Jr. STF 海外修練会への参加優先権が与えられ、上位3位入賞者には盾が授与。発表者全員に『文鮮明先生のみ言に学ぶ統一原理』前・後編がプレゼントされた後、横川洋介^{よこがわひろすけ}第5地区代表成和学生部長のリードで億萬歳四唱を行い、大会は終了しました。

今回の原理講義大会をもって、9月から11月にかけて地区大会、東・西日本大会、全国大会と続いてきた2015年度の中和文化祭が幕を閉じました。

神霊あふれる礼拝、開かれた教会づくりを目指して

「第9回東日本聖歌隊コンクール」開催



①審査員と入賞した聖歌隊代表 ②優勝した「渋谷グリーンハーモニー」 ③第3位の「大宮 Peaceful choir」 ④拍手をする聖歌隊メンバー

12月5日、東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で「第9回東日本聖歌隊コンクール」(広報局文化部主催)が開催され、熱気溢れる発表の場となりました。

「聖歌隊コンクール」は、教会の発展と聖歌隊の育成、聖歌隊文化の定着を願って企画され、2008年から定例行事となり、今回で9回目。今回は、予備審査を通過した仙石塩釜、宇都宮、大宮、浦和、新潟、渋谷、世田谷、天馬、八王子、川崎の各家庭教会(※地区順)から10組の聖歌隊が参加。どの聖歌隊も個性豊かで、聖歌に込められた深い^{こころ}意を巧みに表現、透き通った歌声が会場全体を包み込みました。

コンクールでは、それぞれの聖歌隊が、課題曲として成約聖歌から任意で選んだ1曲を無伴奏で歌った後、自由曲を発表。審査では、ハーモニー、声の美しさ、表現力、一体感、音量などの音楽的要素に加えて、事前に報告された礼拝への貢献度も審査の対象になりました。発表で聖歌隊は、日頃の練習の成果を10分間の讃美で精一杯に披露していました。

厳選な審査の結果、1位は第5地区南東京教区渋谷家庭教会の「渋谷グリーンハーモニー」(課題曲:聖歌13番「苦難

と生命」、自由曲:讃美歌298番「安かれわが心よ」、2位は第5地区西北東京教区天馬家庭教会の「天馬 Jr. クワイア」(課題曲:聖歌39番「園の歌」、自由曲:「ハナニメウネ(神の恵み)」)、3位は第3地区西埼玉教区大宮家庭教会の「大宮 Peaceful choir」(課題曲:聖歌57番「告げよ」、自由曲:「アメージング・グレイス」)、奨励賞としては第4地区新潟教区新潟家庭教会の「Pure Hearts」(課題曲:聖歌20番「成し遂げよう」、自由曲:讃美歌21・104番「愛する二人に」)が選ばれました。

審査員で聖歌編纂委員の天野照枝^{あまのてるえ}先生は、「私たちの体が楽器です」と声の作り方を指導した上で、天の高みを目指すことが重要であると総評。

広報局の猪熊広己^{いのくまひろみ}文化部長から、入賞した聖歌隊の代表者に賞金と賞状、記念の楯が授与されました。

最後に、早瀬敏弘^{はやせ としひろ}先生の指揮で、「天一国の歌」を全体讃美し、聖歌隊毎に記念写真を撮ってコンクールは終了しました。

参加者たちは、聖歌隊の歌声が全国の教会に響きわたり、神霊に満たされた礼拝と開かれた教会づくりに貢献することを誓っていました。

地域社会に善を広める「心の書写」

宮城教区「書写ファミリーフェスティバル」に1300人が参加



①「書写ファミリーフェスティバル」の参加者 ②「天父報恩鼓」の演舞 ③両親に見守られ証しをする男子児童 ④会場で書写をする参加者

小雨が降る11月23日、宮城県多賀城市内の会場で「第36回幸せな家庭づくり 書写ファミリーフェスティバル」が開催され、県内にある4つの教会から、新規ゲストや教会員の親族など350人を含む約1300人が参加しました。

今回のフェスティバルは、田中敏明・第2地区長の指導のもと、宮城教区がこの1年間、毎週月曜日に各家庭で行う「家庭書写礼拝」と「家庭書写集会」の基盤の上に、継続会員1000人・1000世帯を目指して取り組んできた活動の集大成の大会です。教区全体が心をついに歩む中、家族・親族や地域の友人・知人などの参加が次々に決定。受講を始めたばかりの婦人が夫を誘って参加したり、受講生が新規ゲストを誘い、新規ゲストがさらに別の新規ゲストに声を掛けるなど、まさに霊界が役事していると思えないような出来事の連続でした。

フェスティバルは、壮年80人による合唱隊「北のまほろばファーズ」の大合唱で開幕。続いて、小学生から大学生までの7人のチームによる「天父報恩鼓」の勇壮な演舞が会場を盛り上げました。

次に、小学4年生の男子児童が両親と共に登壇、「僕の家での家族書写会の様子」と題して書写の体験談を披露。「いつも家族が揃って書写をする家族書写会が、僕は大好きです」と元気に語り、親子そろってのほのぼのとした証しに参加者は心を

動かされていました。来賓3人の紹介と前県議会議員の挨拶の後、浅川勇男先生が講話を行いました。

その中で、浅川先生は「真の愛の3つの特色」や「幸福になる4つの引出し」などについて分かり易く解説。文鮮明先生の心を書き写す「自叙伝心の書写」の意義と価値を強調しました。

続いて、参加者全員が心を込めて心の書写を体験。文先生の自叙伝にある「世界が一つになって平和に暮らす」というみ言を、真っ白な書写用紙に真剣に書き写しました。

田中地区長の挨拶と浅川先生の祝祷に続き、豪華賞品が当たるお楽しみ大抽選会で参加者が大復興した後、フェスティバルは幕を閉じました。

初めての参加者からは「とても楽しかった」、「このような人たちがたくさんいれば犯罪も無くなるよね。もっと広まったらいいのに……」といった感想が寄せられました。

仙台家庭教会は、これからも書写を实践する会員1100人を中心に、「家庭書写礼拝」「家庭書写会」を通して1000家庭（世帯）の基盤づくりを推進。地域社会に善なる影響を与える救国救世の運動として、「心の書写」運動を展開していく方針です。

“幸福な人生は、家庭から始まる”

沖縄・那覇家庭教会が「オープン礼拝」開催



①「オープン礼拝」の参加者 ②咸鎮模沖縄教区長 ③説教に聞き入る参加者 ④聖歌隊「インフィニティ」

11月29日午前、沖縄県内の会場で沖縄教区那覇家庭教会のオープン礼拝が行われ、新規ゲスト14人、再復帰のゲスト3人を含む約200人が参加しました。外部施設で行った今回の礼拝には、教会で行う通常の礼拝と比べ30人ほど多くの参加者が集まりました。

最初に、沖縄教区聖歌隊「インフィニティ」が歌と演奏を2曲披露。参加者の心が和んだところで、本部伝道教育局が制作した映像「人生の三段階」を上映、参加者たちは、私たちの人生は「母親の胎中」「地上」「霊界」の3段階からなっており、地上生活は愛の世界である霊界で生きるための準備期間であるという説明に真剣に見入っていました。

次に、那覇家庭教会の金城幸弘壮年部長が、自らの家庭について証しを行いました。3人の子供のうち2人が、祝福結婚を経てそれぞれ米国と岡山で家庭生活を出発しているという金城部長は、「子供たちは自らが親になった今、親の心情を実感するようになりました」と指摘。また、子供から「今改めて親に感謝しています。本当にお父さん・お母さんの子供で良かったです」との内容の手紙を受け取ったエピソードを披露すると、

話を聞きながら涙ぐむ参加者もいて、会場の雰囲気は感動でいっぱいとなりました。

続いて、咸鎮模沖縄教区長が登壇し、「幸福な人生、家庭への招待」をテーマに講演を行いました。

その中で、咸教区長は「幸福な人生は、家庭から始まります」と強調。「家庭を良くしていけば、夫婦関係や親子関係、嫁姑関係のほか、社会生活もすべてうまくいくようになります。家庭を良くするためには、親を敬い、親孝行をして、先祖を敬うことが大切です」という内容を語りました。参加者たちは、咸教区長のメッセージに真剣に耳を傾けていました。

伝道対象者が、家庭連合が行っている様々な活動について具体的に知る機会となるオープン礼拝。那覇家庭教会の食口たちにとっても、親族や知人・友人を誘いやすいうえに、その後の教育も進めやすいと好評でした。

オープン礼拝は12月にも行われ、来年1、2月にも毎月1回のペースで行う予定です。那覇家庭教会では、オープン礼拝を行いながら、神氏族メシヤ活動を積極的に進めていく方針です。